

# 鮎、禁漁期間突入！！今年の結果は・・・？



**やっと始まった8月**  
 そんな悲惨な状況の中、8月、台風後のごんぶりや、やっと入荷量が増えた。一か月遅れてやっと夏が始まったと感じた鮎市場だった。その後もう少しずつ入荷が増えたが、それでも8月の入荷量は300\*未満。

**6. 7月は全く入荷なし**  
 6月1日。待ち望んだ解禁日。しかし、全くかからず、釣り人はあちこちを転々としながら鮎を追った。鮎は見えず、川も動かず、期待の梅雨はまさかの大遅刻！平年より20日も遅く梅雨入りし、長雨で鮎は獲れない日々が続く。6、7月の入荷量は2ヵ月連続で400\*未満。

**9月になる**  
 9月になるのと少しづつ量が増え、中旬の台風前に今季一番の入荷量となる火振り漁で大量入荷。一日で3000\*を超える日も出た。

**追いくる禁漁期**  
 そうこうしているうちに、禁漁期が迫り10月に突入。あわてて漁師たちは川に出始めたようだった。台風が度々近づき冷や汗をかいていたが、川の水位と台風に相談しながら火振りを行う地域が多数出た。

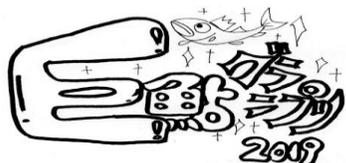
**最終日の前夜は、多くの地域で火振りの声を聴いた。**  
 月と漁師の夜だった。

**漁師の皆様へ感謝**  
 漁師の皆様、今年もお疲れさまでした。鮎がなかなか獲れないにも関わらず、たくさん入荷いただきありがとうございます。大切に販売させていただきます。来年もよろしくお願いたします。来年は良い鮎の年になりますように。

2019年鮎の入荷量(kg)

	釣鮎	網鮎	計
6月	38.5	1.0	39.5
7月	39.4	23.1	62.5
8月	103.9	181.7	285.6
9月	257.2	717.6	974.8
10月	55.0	504.2	559.2
計	494.0	1427.6	1921.6

## 今年の鮎総括



## 今年の鮎の謎を解明！！

鮎の研究者高橋先生に聞いてみた。

### 1. なぜ鮎が獲れなかったのでしょうか？

【高橋先生】当たり前ですけど、天然遡上が少なかったからです。問題は、なぜ天然遡上が少なかったか？真相は残念ながらわからないが、断片的にわかっていることを紹介しましょう。  
 ①昨年の仔魚の流下量はまれにみるほど多かった。  
 ②昨年の秋の海水温が非常に高かった。  
 ③天然遡上の極端な減少は、太平洋では九州～関東南部と広い範囲。

つまり、鮎の仔魚が海に出た早い段階で大量死し、天然遡上の激減が起きたと思われる。かなり広い範囲で同じような現象が起きていることから、原因としては「海況」といった広範囲に及ぶ要因が考えられる。アユの仔魚は海水温が高いと、塩分濃度や代謝などの関係で生存率が低下することから、海水温の高さが主要な要因となった可能性が高い。

これほど海での減耗が激しいのは20年に1度ではないか・・・しかし、今回はかなり広範囲の現象なので、四万十川特有の現象ではないようです。

### 2. なぜ鮎がこんなに大きいのでしょうか？

【高橋先生】ズバリ、鮎が少なかったから。好きなだけ餌を食べることができ大きく育ったのだろう。  
 まず、「数が少ないと巨大になる」という鮎本来の性質が見られたのは、四万十川の河川環境は巷に言われるほど悪くなっていないということだ。  
 四万十川は本来、「巨鮎の川」ではない。数釣りの河川である。西土佐では9月になると23-25(120-180g)の教釣りができる川だった。これくらいいたら、鮎は縄張りを死守する必要があり、友釣りでもよく釣れたのだろう。  
 もともと、四万十川に適切な鮎の量は1000万尾。90年代はそれくらいいたが、今は比較できないくらい少ない。去年の豊漁は決して多くないのだ。鮎は資源量の変動を繰り返すが、それでも一定の資源水準が維持されていれば、案外安定するし、一時的に資源減少が起きてても回復が早い。今の四万十川は一定の資源レベルに全く届いていないので、非常に厳しい(極端な不漁になりやすいし、回復力が弱い)状態にあるのだと思う。

33cm  
340g

今年のグランプリは、麻田3兄弟の真ん中、麻田和治さんです！橋の大橋下にて、ごんぶりで釣ったようです。かかった時はナマズかと思うくらいひきだつたと。デカすぎて一番大きい袋にも入りきりません・・・(10月3日入荷)



第5号  
特別鮎号

令和元年  
10月24日

地域おこし協力隊  
丸石あいみ

TEL : 0880-52-1148  
西土佐江川崎2410-3



たこ焼きは50コ食べるに、饅頭は1つもくえん



市場長、酒は友達 みっちゃん

かとうてかめん！



最年長、入れ歯は大事 わかさん

もうなっせ～しんきな！



最速エース、口癖はしんきな ちーちゃん

あッあッ



事務、トイレはお家であゆみちゃん

寝ても覚めてもツガニ達のが気がなります。



ツガニリーダー、汗とともに かよちゃん



おばちゃん達には、何にも勝てません。ほんまに。修行中です。おばちゃんパワーに感謝。ただ・・・忘れそうになるけど、私は若い・・・。



協力隊、日々修行中 まるちゃん

# ほんまに釣れたら釣師の秘漁師の川魚祭り



～今年の鮎は…どうでしたか？～の談



大漁の漁師Fさん

「デカイ鮎ばかりで大変だったようです。名人でも友釣りではなかなか釣れなくて、漁りに出るのをやめた人も。釣りんじゃないからね。」

【漁師A】「デカすぎ！」  
【漁師B】「バケモンじゃ！なまずかと思った。」  
【漁師C】「竿2本折ったけん！20万円くらいか？釣保険入っとるけど。」  
【漁師D】「釣には楽しいけん、デカけりやいってもんじゃやないけんね。」

鮎漁最終日。鮎市場にくる漁師たちに聞いてみました。丸石「今年の鮎はどうでしたか？」  
【漁師A】「駄目だ〜」  
【漁師B】「全然だめだ〜」  
【漁師C】「今年も楽しかった〜」  
【漁師D】「だめ！」  
【漁師E】「おとりと仲良く泳ぎよる」  
みんな口をそろえて駄目という。そして：  
鮎漁最終日。鮎市場にくる漁師たちに聞いてみました。丸石「今年の鮎はどうでしたか？」  
【漁師A】「駄目だ〜」  
【漁師B】「全然だめだ〜」  
【漁師C】「今年も楽しかった〜」  
【漁師D】「だめ！」  
【漁師E】「おとりと仲良く泳ぎよる」



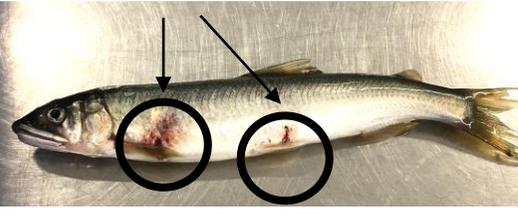
鮎終了の「終わったぞ〜！」のポーズ

「漁師A」「しょうがないわい。自然のものやけんね。」  
【漁師B】「こんな年もある。また来年よ〜。」  
こんな年もある。自然のもの。確かにそうです。また、来年はどんな川になるでしょうか。一年ごとの変化を楽しむ漁師たちでした。  
はできんから。投網を始めた人もいたよな。おつたぞ！配り切れんばあがこんだけある。」  
【漁師F】「すごい群れがおつたぞ！配ったけど配り切れんばあがこんだけある。」  
重そうなクーラーを傾けるとズド〜と鮎が出てきました。最終日に、下っている鮎まで網を投げ続けたそうです。おるところにはおつたよう

## 「冷水病」を知ってるか？！

鮎の冷水病を知っていますか？  
今年是比较的に少なかったようです。これから流行ピークなので産卵に影響が出ないことを祈ります・・・。さて、冷水病の研究をしている高知大学の今城先生に冷水病について聞いてみました！  
【今城先生】

## こんな傷・・・？



全国どここの河川でも、鮎は今「冷水病」という非常に厄介な病気の問題を抱えている。四万十川でも90年代には、これまで見たことのない、死んだ鮎が流され川底に沈んでいる様子を見た人も多いだろう。  
鮎に体に穴が空き、体表が薄くなったり、ひれが赤くなっていることがある。そんな鮎は、これから冷水病を発症するかもしれない前兆の鮎である。冷水病は、細菌の感染症である。この菌は、体に傷が多くなる鮎の「宿命」を利用して、そこから簡単に侵入し、体に穴を空け、傷口からの出血で、やがて貧血で鮎は死亡する。血を固まらないよう菌が悪さをするのも恐ろしいところである。  
川で病気がよく出るのは水温15〜19℃。これは菌がよく増殖する温度と関係しており、四万十川では5月の遡上時期に多いとされる。最近の研究では流下時期の親アユが川にまき散らしながら、産卵場まで下っているという見解もある。これは、成熟に伴った体の免疫力低下と深く関わっているらしい。冷水病は鮎の資源減少に大きく関わっている。今後の研究に活かすため、冷水病の鮎を獲ったらぜひ漁協へもってきてください！